

## 1. 内政

・1日、ガガウズ自治共和国の市民グループ「統一ガガウズ」は、モルドバの統合の方向性を問う同共和国内での国民投票を12月22日に実施するようフォルムザル自治共和国首長に提案。同日、同首長は、同国民投票実施に関する決議案に署名し、同共和国議会に送付。

・3日、ヴォローニン共産党党首は、同日実施された議会本会議において、レアンカ内閣の不信任決議案を発議する旨表明。

## 2. 経済

### ▼マクロ経済

・4日、モルドバ国立銀行は、2013年上半期における海外からの直接投資額が1億2,000万ドルを超えた旨発表。2013年6月末時点での海外からの投資額累計は35億ドル。

### ▼IMF

・2日、アリエール駐モルドバIMF代表は、モルドバの2013年のGDP成長率見通しを従来の4.0%から5.5%引き上げた旨発表。

## 3. 外交

### ▼コルマン議会議長のルーマニア訪問

・30日、コルマン議会議長は、ルーマニアを訪問し、バセスク大統領を表敬。同大統領は、ルーマニアは今後もモルドバの欧州統合路線を支援する旨発言。双方は、モルドバの欧州ガス供給網への参加問題等に関しても協議。

・30日、コルマン議長は、ボンタ首相と会談し、モルドバの欧州統合の展望及びエネルギー分野を含む両国協力関係等に関し協議。

・30日、コルマン議長は、コラツェアン外相と会談し、モルドバ国民のルーマニアへの査証免除に関する行動計画の履行状況、ルーマニアTVR1のモルドバ国内における放送再開及びMoldova1のルーマニアにおける放送再開の問題等に関し協議。

・30日、コルマン議長は、アントネスク上院議長及びズゴネア下院議長とそれぞれ会談し、モルドバの欧州統合に向けた両国議会間協力等に関し協議。同日、コルマン議長は、ルーマニア議会において演説し、モルドバの欧州への発展の道に代替案はない旨強調。

### ▼フィーレ欧州委員の来訪

・3日、ティモフティ大統領は、来訪したフィーレ拡大・近隣政策担当欧州委員と会談し、国内に反対勢力があるとしつつ欧州統合に向けた改革を断行する旨発言。同欧州委員は、司法改革及び汚職との闘いがモルドバ政府の課題である旨改めて強調。

・3日、レアンカ首相は、フィーレ欧州委員と会談し、ビリニ

スでのサミット前後のモルドバの課題に関し協議。同欧州委員は、10月中旬にキシナウに来訪予定のEUミッションによる報告が肯定的なものであれば、欧州委員会は欧州議会に対し査証の廃止を提案し、モルドバ国民に対するEUへの査証が免除される可能性がある旨発言。

### ▼イルヴェス・エストニア大統領のモルドバ訪問

・4日、ティモフティ大統領は、来訪したイルヴェス・エストニア大統領と会談し、両国関係、モルドバの欧州統合路線等に関し協議。イルヴェス大統領は、エストニアはモルドバの欧州統合路線及びEU査証免除を支持する旨発言。

・4日、コルマン議会議長は、イルヴェス大統領と会談し、両国議会間協力、モルドバ国内改革の実施状況、ビリニウスにおけるサミットの見通し、EU査証免除問題等に関し協議。

### ▼リンケビチュウス・リトアニア外相のモルドバ訪問

・4日、ティモフティ大統領は、来訪したリンケビチュウス・リトアニア外相と会談し、ビリニウスにおける東方パートナーシップ首脳会合の準備状況等に関し協議。リンケビチュウス外相は、モルドバは東方パートナーシップ諸国のリーダーであるとして、2014年の現欧州委員会の任期中にDCFTAを含む連合協定が署名される可能性はある旨発言。

・4日、レアンカ首相は、リンケビチュウス外相と会談し、両国経済協力、モルドバの欧州統合路線等に関し協議。リンケビチュウス外相は、モルドバ国民に対するEU査証が免除される可能性は現実的にある旨発言。

・4日、コルマン議会議長は、リンケビチュウス外相と会談し、モルドバの欧州統合路線の展望、両国関係、地域情勢及び近隣諸国との関係等に関し協議。

### ▼パンジキゼ・グルジア外相のモルドバ訪問

・4日、ティモフティ大統領は、来訪したパンジキゼ・グルジア外相と会談し、両国友好関係の活性化、欧州統合路線における協力等に関し協議。パンジキゼ外相は、ロシアの東方パートナーシップ諸国への圧力に対し両国は共に行動する必要がある旨発言。

・4日、コルマン議会議長は、パンジキゼ外相と会談し、東方パートナーシップ首脳会合の展望、両国の欧州統合路線、EU査証の免除問題、GUAM及び東方パートナーシップの枠組みにおける協力及び両国議会間対話の活性化等に関し協議。

### ▼その他

・レアンカ首相は、ニューヨークでの国連総会からの帰路、イタリアを訪問し、28日にベローナ在住のモルドバ国民との集会に、29日にベネチアで開催されたモルドバ投資フォーラム及びパドヴァ在住のモルドバ国民との集会に出席。

・30日、レアンカ首相は、メドベージェフ・ロシア首相と電話

会談し、ロシア市場へのモルドバ産ワイン輸出再開に向け協議。

・2日、ティモフティ大統領、レアンカ首相、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、モルドバを訪問したEU28か国の政治・安全保障委員会(PSC)大使と会談。ティモフティ大統領は、モルドバはEUとの連合協定締結に必要な義務を履行する固い決意である旨表明し、スティーヴンス同委員会委員長は、司法改革、汚職との闘い及び投資環境の整備が重要である旨発言。

・2日、欧州評議会議員会議(PACE)は、モルドバの民主主義強化に関する監視を継続する旨決定。

・4日、オニシチェンコ露連邦消費者権利保護・福祉分野監督庁長官は、9日からの週にモルドバを訪問する予定のロシアの専門家による調査結果によりモルドバ産ワインの輸入停止が近い将来解除される可能性がある旨発言。

・4日、EUとの連合協定締結の重要性と利点等について周知することを目的とした第5回東方パートナーシップ市民社会フォーラムがキシナウにおいて開催され、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相のほか来訪中のフィーレ拡大・近隣

政策担当欧州委員、リンケビチュウス・リトアニア外相及びパンジキゼ・グルジア外相等が出席。

#### 4. 沿ドニエストル

##### ▼「5+2」者公式会合の開催

・3日、本年第4回目の「5+2」者公式会合がブリュッセルにおいて開催され、会合参加者は、移動の自由の問題及び7月の同会合において署名された「環境保護及び天然資源利用分野における共同行動計画案に関する議定書」の履行等に関し協議。

・議長を務めたデシツァOSCE議長国特別代表は、ドニエストル川兩岸住民の移動にとっての障害を軽減する努力の重要性を強調。カルポフ国家再統合問題担当副首相は、沿ドニエストル地域との境界における政府による外国人の出入国管理は沿ドニエストル地域の住民には行われない旨説明。シュタンスキ「外相」は、モルドバ政府による同決定を高く評価。

・ウクライナのOSCE議長国の下での最終となる次回会合は、11月25、26日にキエフで開催される予定。

**※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。**  
(了)